

「(仮称) 福岡市青少年科学館基本構想(案)～福岡市少年科学文化会館再整備～」 についての市民意見募集の実施結果及び修正について

1. 市民意見募集の実施概要

(1) 目的

福岡市少年科学文化会館の再整備の基本的な考え方等についてまとめた「(仮称) 福岡市青少年科学館基本構想 ～福岡市少年科学文化会館再整備～」の策定にあたり、市民との情報の共有を図り、市民の意見を反映させるため、パブリック・コメント手続きに準じて基本構想案を公表し、意見募集を実施しました。

(2) 意見募集期間

平成24年7月20日(金曜日)～平成24年8月21日(火曜日)

(3) 実施方法

① 基本構想案の公表

こども未来局青少年施設検討担当(市役所13階)、情報公開室(市役所2階)
 情報プラザ(市役所1階)、各区役所市民相談室(情報コーナー)、入部出張所
 西部出張所、少年科学文化会館(中央区舞鶴2丁目5番27号)
 以上の場所で資料を配布及び閲覧に供するとともに、市ホームページに掲載しました。

② 意見の提出方法

資料の配布及び閲覧場所への持参、郵送、ファクシミリ、電子メールによって意見を受け付けました。

(4) 意見の提出状況及び対応

① 意見提出者総数 31名

② 意見件数 93件

意見の内訳

序 少年科学文化会館再整備の必要性和方向性 に関する意見	48件	51.6%
うち「4・(3)劇場型多目的ホールについて」に関する意見	28件	30.1%
I 基本的な考え方 に関する意見	6件	6.5%
II 事業活動の方向性 に関する意見	18件	19.4%
III 施設展開の方向性 に関する意見	7件	7.5%
IV 管理運営の方向性 に関する意見	5件	5.4%
その他の意見	9件	9.7%
合 計	93件	100%

③ 市民意見を踏まえた基本構想案の修正箇所数 8箇所

2. 「4－（3）劇場型多目的ホールについて」に関する市民意見と市の考え方

基本構想（案）14 頁の「4－（3）劇場型多目的ホールについて」に関して、意見 NO.12 のとおり「現在の劇場型ホール機能は再整備しないとの方向性に反対である。文化ホールもこれまで通りに設置することを強く望む。」との趣旨の意見が 28 件寄せられました。これらの意見の詳細と意見への市の対応と考え方は以下のとおりです。

（1）意見の詳細

28 件の意見は、概ね次の 4 つの理由から、文化ホールもこれまで通り設置することを望むというものでした。

- ① 子どもにとって文化は重要である
- ② 現在の利用者にとって少年科学文化会館ホールはなくてはならないものである
- ③ 市内に文化ホールが不足しているので新たな施設にも文化ホールが必要
- ④ 市の財政事情を理由に文化ホールをなくすというのはおかしいのではない

（28 件の意見要旨）

- これまで少年科学文化会館ホールを利用し、世代を超えて文化・芸術を繋いできた年間 6 万人を超える福岡市民がいる。41 年間、このホールを拠点に、子どもたちの文化・芸術が発展してきた。子ども優先の舞台芸術を楽しめる施設として建設されたので、舞台も広く、セットの出し入れも容易になっている。入口からフラットで繋がるフロアーも広く、中・高生の演劇や吹奏楽の発表会、子どもだけでなく大人の様々な分野の発表・交流の場になっている。福岡市内に、このホールに代わるホールはない。
- 「徹底した選択と集中」「コンパクトで持続可能な施設づくり」といった言葉がいつも出てくるが、こども施策への予算は未来への投資である。福岡市のこども達の健全な育成を望む市民は、市税をこども達の育成に使うことに異議を唱えないと思う。
- この度の移転計画にあたっては、中央区の大名・簗子小学校の敷地が移転により空き地となる。この地の売却財源を地域拠点として発展がのぞまれる六本松地区にあて、文化ホールを設置することは福岡市西南部の発展にも繋がる。
- 「子どもの健やかな育ちや豊かな学び」は科学分野だけでは養われない。文化の三分野は、芸術・科学・スポーツである。子どもの心を育て、仲間を繋ぐ文化・芸術の拠点を外すことはやめてほしい。
- 「アジア太平洋こども会議」では、毎年、アジアの子どもたちが自国の文化を披露している。その交流の場としても、子どもたちに特化した文化ホールが福岡市に存在することは必須。
- 図書室を今以上に充実させるとともに、絵本の読みきかせのイベントだけでなく、絵本作家のワークショップ、関連する演劇や演奏会を行ってこそ、大人とこども、子ども同士の心の共有ができる。その為にも、拠点となる文化ホールは必要。
- 基本構想全体を通して、ホール機能を整備しない理由は見当たらない。これまであったホール機能を、納得いく理由もなしになくすことはやめるべき。少年科学文化会館ホールは福岡市の誇りであり、子どもたちの健全育成に貢献するととても重要な施設である。
- 科学に関する講演会、科学ホールならではの活動がほとんどないこと、貸し館としての利用がほとんどであると記されているが、それでも利用が多いし、700～800 席のホールが少ない市内で、市民にとっては貴重な場所なので、ぜひ新しい施設にも作ってほしい。子どもの教育、人材育成にも、文化は必要！！心豊かに育てるためにも文化ホールはなくさないでほしい。
- 創造性の発達は、大人にも、子どもにも、生きる力、問題解決能力、感情の発達をうながす。21 世紀の子どもたちにとって、重要な表現の場として舞台で様々な文化、芸術に参加でき

るようにホールが必要。

- 科学する環境と同時に、芸術的・文化的環境を整備するのも次世代への市の責務。これまでホールがいかにも有効に活用され、市民の文化活動に大きく貢献してきたか、歴然と示されている。これだけ活発に利用されていたホールが無くなれば、会場が見つからないために活動が中止されたり、縮小されていくことが予測される。また、鑑賞のみならず、自らが発表する側としても、その場がなくなることはとても残念。科学館が知識を得るだけの場ではなく、仲間とともに創りあげていく歓びを体験する場でもありたい。科学のみでは人間性豊かな市民は育たない。芸術・文化に接することで、人は人と人の結びつきの中で生きていることを実感し、自らを大切に思う自尊感情とともに他者を思いやる心など人としての土台が築かれる。いじめの問題で、どれだけ多くの子ども達が、苦しんでいることか。自己肯定感を育てるには、幅広く世の中の文化・芸術に触れることが大切。回り道でも心を育てることを丁寧におすすめしていかなければならない。子どもの育ちにとって、科学とともに文化は必須であり、その一端を担う芸術的・文化的環境を整備するのが次世代への私たち市民の責務と考える。近年、薬院のメルパルクホールが閉鎖され、電気ホールもなくなった今、親子で気軽に外出ける施設が無くなった。近郊の都市の実態からみても、福岡市がとても文化的施設が貧しい現状にあることは周知のこと。市の都合で移転するのだから、現状より縮小されるプランには納得いかない。現状維持もしくは、未来への確実な投資としてホールの設置を決断してほしい。
- 8 頁の「利用の中心は貸ホールで、科学に関する講演会などの科学館に併設されたホールならではの活動はほとんどない」との評価の仕方は、本編、概要版、反映状況など全ての文書で強調されており、「劇場型多目的ホールは整備しない」という方向への恣意的な誘導ではないか。現在の「少年文化会館」の成立過程を考えてみても、子ども達が優先的に利用できる「文化会館」を求める市民の声に応じて昭和 46 年に設立されたものであり、青少年の舞台公演を含む文化活動に大いに貢献してきた。「文化ホール」機能を、「科学館に併設されたホールならではの活動」を基本にして考えるべきではない。「少年科学文化会館」であることを忘れないで欲しい。寧ろ、そのフレーズの前段で書かれている「演劇・音楽等の練習・発表の場として、広く子どもや市民に利用されている」ということが大切な「少年文化会館」に求められた機能であったし、今後もこの重要な機能を維持するべきではないかと考える。
- 11 頁の「主催事業はわずか 3%で、ほとんどが貸し館としての利用である。」との表現は、如何にも「貸し館事業は他のホールで足りる」と云う感触を読む人に与える。実際には、「他のホールで足りない」ほど利用率が高いホールである。本編の記述（P.11 イ）によっても、ホールの稼働回数は、合計すれば 414 回にも達しており、稼働率は極めて高く、子どもや市民にとってなくてはならない、重要な表現や発表の場、そして成長の場となっているように思う。この文化活動の大切な場を、新しい「青少年（文化）科学館」にも拡充してほしい。寧ろ、積極的に主催事業を行なって活用すべき処を、「学芸員等の専門のスタッフがいないため（P.12⑤）」やりたくてもやれなかったことを教訓にすべき。そういう現状の問題点を解決して「科学館に併設されたホールならではの」自主事業を推進してゆくべきなのに、これまでそれができてこなかったから「劇場型多目的ホールは整備しない」という方向に論を進めるのは「本末転倒」の議論ではないか。新しい会館では、専門スタッフやボランティアの積極的な関与により「自主事業」も展開しながら、これまで「少年文化会館」で創作活動や鑑賞活動を行なってきた文化団体等にも引続き利用する機会を提供すべき。
- 「多目的ホール」型ではなくとも、青少年の文化活動の場に相応しい創作・表現・発表・観賞などの機能を持つ「多機能ホール」を整備されるよう強く要望する。「子どもの教育と人材育成に重点化」するためにも文化への資質は極めて重要であり、科学的発想と文化の素養は車の両輪としなければならない。「サイエンスショー」を行うステージは、連日各種のショーが行われるのであろうから、このステージとは別の「多機能ホール」として整備し、「演

劇・音楽等の練習・発表の場として、広く子どもや市民に利用されている」現在の「少年文化会館」に備わっていた機能を一層拡充してほしい。

- 一番子供達が望んでいる、劇、芝居、映画をみれるようにしてほしい。
- 福岡市で文化ホールを使いたくても、土・日を希望した場合、7～8人でクジをひいて当選しなければ使えない。市民センターがあると言われても、社会教育施設である市民センターのホールは演劇には使いにくい。ただでさえ、福岡市は文化ホールが少ない。ますます子ども達は文化芸術にふれる機会が減っていく。本当に福岡の子どもをアジアのリーダーになるべく育てようと思うなら、科学だけではなく文化も必要。子ども達から、演劇発表、観劇の場をとりあげないでほしい。もっと利用者（市民）の声に耳をかたむけてほしい。
- 科学部門に限らずホール等、でき得れば宿泊設備も設置されることを望む。
- これまで長年、子ども達といっしょに少年科学文化会館を利用し、観劇はもちろん、コンサートや講演会など楽しんできた。子どもの教育、人材育成というならば、文化ホールは切っても切れないものではないか。心豊かな人間は科学だけで育つものではない。
- 生の文化芸術に出会うことも、子どもの教育と人材育成に欠かせない。生の舞台に出会うことは登場人物に思いを寄せたり、想像力をふくらませたり、舞台セットや照明の美しさに触れたり、その経験の積み重ねが豊かな感性を育てることへとつながっていく。そして、科学面だけでなく、優れた文化芸術に力をいれることは様々な分野で活躍する人材育成にもなる。福岡市は他の大都市に比べても専用の演劇ホールが少ない。優れた作家、演出家、脚本家、舞台美術で第一線で活躍する人材を福岡市から生み出すためにも、身近な場所で演劇にふれる機会をなくさないでほしい。
- 現在の少年科学文化会館を私たちは「少文」と呼び、子ども劇場の基本会場として親しんできた。親子で子ども向けのすぐれた舞台、音楽を楽しむことのできる貴重な場である。700余という座席数も手頃で、全国の劇団から、舞台機構の整ったすぐれたホールとして高く評価されている。市民センターのホールなどでは代用できない。その他、保育園から大学、さらに市民の文化サークルまで文化発表の場として広く利用されている。財政難と言うが学校統合で空地となる土地代金を充てればいいのではないか。
- 子ども劇場で長年舞台鑑賞をしてきた。我子が幼なかった頃から、“少年科学文化会館”多目的ホールでの観劇は楽しい思い出となっている。想像力を育む鑑賞活動は子どもの成長にとって欠かせないものだと思う。
- 「劇場型多目的ホール機能は整備しない」というのは市民の要求からかけ離れている。過去41年間のホールの素晴らしい実績を受けついで欲しい。
- これまでホールがあったことで、子どもたちは、多くの生の舞台鑑賞をし、多くの表現活動（ダンス、音楽、劇、など）をしてきた。子どもたちの心の成長にとって生の舞台をみたり、自分たちで表現したりする体験はかせないと思う。科学館のみという狭い範囲でとらえるのではなく、ぜひ文化芸術体験できる場づくりが必要。
- 私は少年期よりこのホールで育ってきた。中央区からはメルパルクホールも電気ホールもなくなった。子育てに文化ホールは欠かせない。
- 科学館と文化ホールは互いに子供の人材育成には必要不可欠な施設。文化と科学は切り離される物ではなく、特に子供の時代に培われておく必要がある。文化は伝統や民謡、音楽、劇、民話などとして大人や子供の心に受継がれるべきではないか。
- ホールの設備、照明、音響の技術等は、科学的な知識が不可欠である。例えば、照明。何色と何色をどのくらいの割合で混ぜたら、こんな色になる。絵の具とは全く違う世界で、正確な知識が必要になる。また、ホールを安全に使用するためには、照明器具を吊るす重さ、角度、など物理の知識も必要。ショートしないように、電気の量を計算したり、スモークマシンで煙を出す量の調整など、科学的な見識が必要である。イメージだけで語られがちな舞台芸術であるが、文化芸術と科学の融合と言う視点は、より高度な文化として、舞台芸術を

牽引してくれるものだと思う。

- 人間としての土台を作る文化を切り捨てるような決定をすることは、許されない。子どもの育ちにとって、文化・芸術も科学も大事なことである。子どもの時に、生の演劇や音楽に出会い、触れることの大切さは、世界の中でも認知されていることである。今ある市民センターは、講演会で使う機能の物が、ほとんどである。子どもを真ん中において、みんながその成長を、見守れるような福岡市でありたいと思う。
- ひとは、人と人の間で 相手の温もりを感じ、支え合い励ましあって生きている。科学技術の進歩は、人類に多大なる貢献をしてくれたし、これからも大切な学門なので、科学館の整備はありがたいが、「ひと」の「ひと」たる所以は、喜怒哀楽の中で自己を表現し、文化を享受する心を持つことだと思う。泣いたり笑ったりしながらの人生だと思う。「血が通う政治」という表現は、的を射ている。市の財政を優先して、「コンパクトな施設」で逃げるのは、市政を預かる身としては手抜きではないか。科学は $1 + 1 = 2$ だろうが、文化は $1 + 1 > 2$ の力を発揮すると考える。次の世代のこどもたちに「文化の種」を渡さないのは、亡国に等しいと案じる。現在の「福岡市少年科学文化会館」から「文化」を抜くのは、後世への過ちである。
- 歴代ノーベル賞受賞者の紹介や、彼らの「志」に関する部分はどのように教えるつもりか。演劇表現などで伝えるなどの場を確保することも必要ではないか。

(2) 意見への市の対応と考え方

以下のような考え方に基づき「原案どおり」とします。

① 再整備の必要性

少年科学文化会館は、子どもの夢や好奇心を育てる体験活動の場として、年間約 22 万人もの子どもや親子が利用する施設であり、子どもの体験活動の機会が減少している中でその役割はますます重要となっています。

特に、近年、理数離れが進む中、学校教育と連携しながら子どもが科学に親しみ、楽しく学べる機会を提供する場としての科学館の役割が強く求められており、現在の施設の老朽化や耐震対応、現在の用地を舞鶴小中学校の運動場として利用予定であることなどを踏まえて、できる限り速やかに少年科学文化会館を移転再整備し、子どもの科学に関する学習環境の充実を図る必要があります。

② 再整備の方向性

今回、基本構想をとりまとめるにあたっては、厳しい財政の見通しを踏まえて、徹底した「選択と集中」の視点から新たな施設が担うべき役割・機能を絞り込むとともに、コンパクトで持続可能な施設づくりを目指す必要があることから、新たな施設は、子どもの科学への興味関心を高め、探求心や創意工夫する力を養うことにより、子どもの学力の向上と将来を担う人材の育成を目的として再整備することとしたものです。

③ ホール機能の整備

文化ホールについては、少年科学文化会館の開館当時は、市立のものとしては市民会館のホールしかありませんでしたが、その後、各区の市民センターや地域交流センターにホールを整備するなど、開館当時とは状況が変わっており、また、香椎副都心（千早駅前）に再整備を予定している東市民センターには約 800 席のホール（現在は 500 席）を整備する予定となっています。

これらのことを踏まえて、ホール機能の整備については、他の施策や施設との役割分担をし

ながら、現利用者への対応も含めて、検討していく必要があると考えており、今回、新たな施設の目的から、現在の少年科学文化会館が有する劇場型多目的ホール機能は整備しないこととしています。現在の利用者には既存のホールや新設されるホールを利用していただきたいと考えています。

④ 子どもが文化芸術に触れ、体験する機会の提供

一方で、子どもの健やかな成長には、様々な文化芸術に触れ、体験する機会を提供することもまた重要であり、これまで少年科学文化会館が果たしてきた役割も踏まえ、科学館ならではの切り口から子どもが文化芸術に親しむ機会を提供できるよう努めるとともに、子どもの創造力や感性を高め、多様な価値観やコミュニケーション能力を身につけることができるよう、学校や地域とも連携を図りながら、子どもが様々な文化芸術に触れ、体験する機会を提供する取組みを、「新・福岡市子ども総合計画」に基づき、推進していきたいと考えています。

なお、文化芸術の鑑賞や発表ができるホールについては、拠点文化施設整備の検討などにおいて、全市的なホールのあり方を検討していくこととしています。

⑤ 少年科学文化会館の移転と舞鶴小中学校整備

少年科学文化会館の移転については、九州大学六本松キャンパス跡地を整備場所の候補地として、土地所有者である UR 都市機構と必要な用地の確保について協議を進めているところであり、老朽化し、耐震性にも課題のある少年科学文化会館を再整備するものです。

また、舞鶴中学校区の 4 小中学校を統合する舞鶴小中学校は、平成 26 年度の開校を目指して舞鶴小学校の校地に建設を進めており、児童数が減少している都心部の子どもの教育環境の改善を図るもので、よりよい子どもの学習環境を整備するため、少年科学文化会館の再整備と併せて、関係局の連携・協力の下に進めているものです。

3. 「（仮称）福岡市青少年科学館基本構想（案）～福岡市少年科学文化会館再整備～」に対する市民意見と市の考え方

意見 NO	頁	分類	意見要旨	対応	市の考え方
序 少年科学文化会館再整備の必要性和方向性					
1	4	序-2-(3)	(3) 大学等の知の集積の欄について、「理工系学部卒業者の多くが市外に流出している」とする根拠と原因は何か。	原案どおり	経済観光文化局が調査を実施している「福岡都市圏大学の就職状況」において、平成24年3月の卒業者については、文系学部卒業で福岡県内に就職したのは51.3%であるのに対して、理系学部卒業で福岡県内に就職したのは37.9%との結果になっており、6割を超える人材が就職を機に県外へと流出しています。なお、その原因については、正確に把握できるものではありませんが、市内・県内に理工系学部卒業者の就職先が少ないことが一因ではないかと考えられます。
2	8	序-3-(1)	キのホール事業について、科学館に併設されたホールならではの活動（利用）がない原因は何かの考察が必要ではないか。	原案どおり	少年科学文化会館の開館当時は、市立の文化ホールとしては市民会館のホールしかなく、また、少年科学文化会館はこれまで主に小学生を対象として事業を実施してきたため、少年科学文化会館ホールは貸しホールとしての利用が中心であり、科学に関する講演会などの科学館に併設されたホールならではの活動が相対的に低くなっているものです。
3	11	序-3-(1)	イのホール利用について、主催事業が（3%）と少ないのはなぜか。行政側に興味がないからか。	原案どおり	少年科学文化会館の開館当時は、市立の文化ホールとしては市民会館のホールしかなく、また、少年科学文化会館はこれまで主に小学生を対象として事業を実施してきたため、少年科学文化会館ホールは貸しホールとしての利用が中心であり、科学に関する講演会などの科学館に併設されたホールならではの活動が相対的に低くなっているものです。
4	12	序-3-(2)	現状の課題①から⑥まで全てにわたって重要な問題意識を持っているようであり、新しい会館では是非とも充実してほしい。とりわけ、学芸員などの専門知識と子どもへの適切な伝達ができるスタッフの育成は大切。一方、民間ノウハウの活用という点では、その観点は重要であるが、それは民間業者への丸投げを意味するものであってはならない。	原案どおり	学芸員等の専門スタッフの配置は必要であると考えており、ご意見の趣旨を踏まえて検討していきます。
5	13	序-4-(1)	「少年科学文化会館は、子どもの夢や好奇心を育てる体験活動の場として（中略）その役割はますます重要となっている」との評価に敬意を表する。しかし、フレーズの最後は、現在の会館が持つ文化の観点が抜け落ちており、「子どもの科学に関する学習環境や文化活動の体験の場の充実を図る必要がある」とするべきではないか。	原案どおり	少年科学文化会館の開館当時は、市立の文化ホールとしては市民会館のホールしかありませんでしたが、その後、各区の市民センターや地域交流センターにホールが整備され、子どもの文化活動の場や機会が充実し、開館当時とは状況が変わってきています。一方、科学館は市内唯一の施設であり、近年、理数離れが進む中、学校教育との連携の観点から、子どもが科学に親しみ、楽しく学べる機会を提供する場としての科学館の役割が強く求められており、科学館を再整備し、子どもの科学に関する学習環境の充実を図る必要があると考えています。 再整備の方向性については、本市の厳しい財政の見通しを踏まえて、徹底した「選択と集中」の視点から新たな施設が担うべき役割・機能を絞り込むとともに、コンパクトで持続可能な施設づくりを目指すこととしています。 このことから、新たな施設では、子どもの科学への興味関心を高め、探究心や創意工夫する力を養うことにより、子どもの学力の向上と将来を担う人材の育成を目的として再整備することとしたものです。 子どもが文化芸術に親しむことも重要であると考えており、これまで科学文化会館として長きにわたり果たしてきた役割も踏まえ、科学とアートを結ぶなどの科学館ならではの視点から、子どもが文化芸術に親しみ、創造性を培うことができるような展示や事業を展開していきたいと考えています。
6	13	序-4-(2)	この頁の最後に予算のことと「選択と集中」について書かれているが、一方で福岡市は港湾地域に新たなコンベンションホールを建設すると聞いたし、さらに、天守閣も含む福岡城の復元計画を検討すると西日本新聞や読売新聞が報じていた。福岡城を復元するほどの余裕があるのならば、新しい「青少年科学館」に文化活動の場を設けることなど、たやすいことではないのか。「選択と集中」と云う一方で、不要不急の「福岡城復元」とは何をかいわんやである。	原案どおり	再整備の方向性については、本市の厳しい財政の見通しを踏まえて、徹底した「選択と集中」の視点から新たな施設が担うべき役割・機能を絞り込むとともに、コンパクトで持続可能な施設づくりを目指すこととしています。 このことから、新たな施設では、子どもの科学への興味関心を高め、探究心や創意工夫する力を養うことにより、子どもの学力の向上と将来を担う人材の育成を目的として再整備することとしたものです。 子どもが文化芸術に親しむことも重要であると考えており、これまで科学文化会館として長きにわたり果たしてきた役割も踏まえ、科学とアートを結ぶなどの科学館ならではの視点から、子どもが文化芸術に親しみ、創造性を培うことができるような展示や事業を展開していきたいと考えています。

意見 NO	頁	分類	意見要旨	対応	市の考え方
7	13	序-4-(2)	(2) 再整備の方向性について、観光資源としてオンリーワンミュージアムを目指すのであれば、バランスの取れた施設にする必要があるのではないか。科学、科学と言うばかりでは何か「大衆迎合」の感じがする。また、徹底した「選択と集中」の項は委員会でも議論不足ではないか。	原案どおり	当初は、これまでに果たしてきた子どもの学び・育ちの機能をさらに充実するとともに、生涯学習や集客交流等も視野に入れ、福岡ならではのオンリーワンミュージアムを目指すとの方向で検討に着手しましたが、最終的な再整備の方向性としては、本市の厳しい財政の見通しを踏まえて、徹底した「選択と集中」の視点から新たな施設が担うべき役割・機能を絞り込むとともに、コンパクトで持続可能な施設づくりを目指すこととしています。 このことから、新たな施設では、子どもの科学への興味関心を高め、探究心や創意工夫する力を養うことにより、子どもの学力の向上と将来を担う人材の育成を目的として再整備することとしたものです。 なお、基本構想については、専門的・学術的見地や利用者の立場からの助言を頂くために設置した少年科学文化会館基本構想検討委員会の意見もお聴きしたうえで、市全体としての施策の展開や厳しい財政の見通しを踏まえて、市が責任をもって決定したものです。
8	13, 14	序-4-(2)	資源のない日本がこれからさらに繁栄して子孫に譲っていくにはやはり科学技術が必須なのだと考える。確かに人間的にゆたかに暮らすには音楽や演劇等のものも必要かと思う。しかし、まずは経済的に成り立たなければ生活がままならない。文化を育む場所は足りないといわれるかもしれないが、他にもある。科学技術を育む施設はない。その意味からも、今回は科学に特化した施設として作り上げ、子どもたちの知的好奇心を向上させ多くの子どもが日本の発展に寄与できる人材に育つようにしてほしい。	原案どおり	(原案賛成意見) ご意見の趣旨を踏まえて検討していきます。
9	13, 14	序-4-(2)	1頁に子どもの理数離れなど科学館の必要性が説かれているが、それ以上に「ノーベル賞学者を出す」などの将来に向けた強い希望を打ち出してほしい。明るい未来につながる科学館のイメージが大事ではないか。	原案どおり	新たな施設は、福岡市の強みを生かしながら、科学の原理や最新の科学技術に親しみ、楽しく学べる参加体験型の科学館として、子どもの健やかな育ちや豊かな学びを促すことを、その基本的な役割・機能としています。 様々な科学体験を通じて、子どもの好奇心を刺激し、探究心や創意工夫する力を養うことにより、子どもが科学に関して確かな学力を身につけ、九州・アジアをリードできる人材、福岡の将来を担う人材の育成にも寄与することを目指していきます。
10	13, 14	序-4-(2)	今回「科学」というフィールドに特化し、将来の福岡・九州・日本・アジアの発展に繋がる人材育成との長期の目標には賛成である。	原案どおり	(原案賛成意見)
11	13, 14	序-4-(2)	現在の少年科学文化会館は科学分野のみならず文化・芸術の各分野にわたる幅広い利用実績と実態があるにもかかわらず、構想案では科学館への機能特化を図っていることがまったく納得できない。これまでの少年科学文化会館の運営・活動全体に対する評価が欠如している。この基本構想案はその出発点が誤っている。科学館への特化を打ち出す前に、同館がこれまで取り組んできた青少年対象の科学分野を含む文化・芸術活動およびその支援の全体に対する、市民の意見も含めた評価検討を行うべき。その上で、子どもの文化・芸術活動に関する最新の動向も踏まえて、新しい少年科学文化会館がどうあるべきか、基本構想を再検討してほしい。	原案どおり	子どもの健やかな成長には、様々な文化芸術に触れ、体験する機会を提供することもまた重要であり、これまでの少年科学文化会館は、音楽や演劇等の練習や発表、文化クラブや教室などの様々な体験活動の場として、その役割の一端も担ってきました。 再整備の方向性については、本市の厳しい財政の見通しを踏まえて、徹底した「選択と集中」の視点から新たな施設が担うべき役割・機能を絞り込むとともに、コンパクトで持続可能な施設づくりを目指すこととしています。 このことから、新たな施設では、子どもの科学への興味関心を高め、探究心や創意工夫する力を養うことにより、子どもの学力の向上と将来を担う人材の育成を目的として再整備することとしたものです。 子どもが文化芸術に親しむことも重要であると考えており、これまで科学文化会館として長きにわたり果たしてきた役割も踏まえ、科学とアートを結ぶなどの科学館ならではの視点から、子どもが文化芸術に親しみ、創造性を培うことができるような展示や事業を展開していきたいと考えています。
12	14	序-4-(3)	現在の劇場型ホール機能は再整備しないとの方向性に反対である。文化ホールもこれまで通りに設置することを強く望む。【28件】 (詳細は「2. 「4-(3) 劇場型多目的ホールについて」に関する市民意見と市の考え方」に記載しています。)	原案どおり	「2. 「4-(3) 劇場型多目的ホールについて」に関する市民意見と市の考え方」に記載しています。
13	13, 14	序-4-(3)	現実問題として財政が厳しいとのことなので、ホールもほしいが、ホールは他の施設に譲り、その分の予算を投入して、今回は科学技術に特化した、大人も子供も、驚き、感動、夢でわくわくする科学館としてほしい。	修正	ご意見の趣旨を踏まえ、14頁 4少年科学文化会館再整備の必要性和方向性 (2) 再整備の方向性の箇所を以下のとおり修正しました。 このことから、「子どもの教育」と「人材育成」に重点化して再整備することとし、新たな施設では、子どもの科学への興味関心を高め、探究心や創意工夫する力を養うことを通じて、子どもの学力の向上と福岡の将来を担う人材の育成に寄与することを目的として再整備することとし、コンパクトでありながらも、現在の少年科学文化会館の科学館としての機能を充実させた、福岡らしい、しっかりと科学を学べる施設、子どもが夢や未来を広げていくことができる施設を目指す。

意見 NO	頁	分類	意見要旨	対応	市の考え方
14	14, 18	序-4-(4) I-4	対象者、施設の名称について【9件】 <大人まで対象を広げたほうが良いとの意見> ・少子化、高齢化が進む現在、青少年に限定せず、大人から子供まで楽しむことができる「福岡市科学館」にしてはどうか。 ・専門家や研究者を意識するならば、対象を広げた「福岡市民科学館」がふさわしいのではないか。 <文化を入れたほうが良いとの意見> ・今のまま「福岡市少年科学文化会館」で良いのではないか。【2件】 ・科学および文化活動の体験活動の場として多くの市民に親しまれる「福岡市青少年文化科学館」としてほしい。 <青年は対象から外したほうが良いとの意見> ・基本的な役割・機能を「子供のすこやかな育ちや豊かな学びを促すこと」とするならば「青年」は対象者として年齢的に遅過ぎるのではないか。対象者を「中学生程度までの子供（及びその付き添い父母。祖父母にも配慮。）」に絞り、名称も「子供科学館」とした方が良い。高校生以上の「青年」は、別途一般を対象とする大型の施設を作りその対象者とすべきである。 <アジアを入れたほうが良いとの意見> ・世界からみた福岡を印象づけるために「アジア」を入れるべきではないか。例えば「福岡市アジア科学館」にしてはどうか。 <近隣都市の施設と類似した名称は避けたほうが良いとの意見> ・施設の名称は、久留米に「福岡県青少年科学館」があり、類似した名前は混乱を招くのではないか。【2件】	原案どおり	新たな施設は、子どもの科学への興味関心を高め、探究心や創意工夫する力を養うことを通じて、子どもの学力の向上と福岡の将来を担う人材の育成に寄与することを目的として再整備するもので、主たる対象者を小学生、中学生及び高校生と位置づけていることから、計画名称を「（仮称）福岡市青少年科学館」としています。 正式名称や愛称、ロゴマーク等については、市民公募などその選定方法も含めて、今後検討していきます。
I 基本的な考え方					
15	15	I-1	基本理念に関して、新科学館の名誉館長にサグラダ・ファミリアの主任彫刻師である外尾悦郎氏（福岡市出身）などを起用して、科学がサグラダ・ファミリアと同じで終わりのない営みであり、それでも完成に向けて努めていくような、世界に通じる哲学的な理念を付与してはどうか。また、サグラダ・ファミリアの廃材などによるワークショップや外尾氏の作品を壁や床、公園などに配置すると、空間のクオリティが抜群に高まると思う。科学館は福岡市に唯一の施設なので、全国・世界からリピーターや視察団を呼べるもの、世界クラスのものにしてほしい。予算には限度があるので、付加価値を付けるアイディアが必要。	原案どおり	新たな施設では「変化・成長」の視点から、常に館が成長するといったことも重視しています。ご意見も参考としながら、今後、検討していきます。
16	15	I-2	41年前に、市民の願いでやっと出来た「少年文化会館」なのに、再整備をきっかけに「文化」や「ホール」をはずそうとしている。OECDの学力調査からも、すべての教科・領域で育ちや学びを考慮しなければならない。これまでの「少年科学文化会館」の歴史的な経緯を無視されることなく、全人的な成長を促す、誇りある子ども専用の施設を作ってほしい。	原案どおり	役割・機能については、福岡市の強みを生かしながら、科学の原理や最新の科学技術に親しみ、楽しく学べる参加体験型の科学館として、子どもの健やかな育ちや豊かな学びを促すことを、その基本的な役割・機能としたいと考えています。 様々な科学体験を通じて、子どもの好奇心を刺激し、探究心や創意工夫する力を養うことにより、子どもが科学に関して確かな学力を身につけ、九州・アジアをリードできる人材、福岡の将来を担う人材の育成にも寄与することを目指していきます。 子どもが文化芸術に親しむことも重要であると考えており、これまで科学文化会館として長きにわたり果たしてきた役割も踏まえ、科学とアートを結ぶなどの科学館ならではの視点から、子どもが文化芸術に親しみ、創造性を培うことができるような展示や事業を展開していきたいと考えています。 なお、文化ホールが必要とのご意見については、NO.12に記載しています。
17	18	I-5	18頁の対象領域・分野のイメージ図の学校教育分野の欄に国語を入れるべき。【2件】	修正	ご意見の趣旨を踏まえ、18頁 5対象領域・分野（展示・活動テーマ）の箇所を以下のとおり修正しました。 学習指導要領を踏まえながら、小学校から高校までに学ぶ理科（物理・化学・生物・地学）の内容を基本とし、算数（数学）や技術・家庭科、保健体育、音楽、図画・工作（美術）、 <u>国語</u> 、 <u>社会</u> 等、他の教科とも関連付けた展示や活動を行うことを検討する。

意見 NO	頁	分類	意見要旨	対応	市の考え方
18	18	I-5	対象領域・分野は、自然科学を強調すべき。子どもに自然界のこれまで考えたことも無かった事実を知らせ、その不思議を感じさせ、想像力を刺激することが科学へのいざないである。また現代では、物が原子・分子で出来ている程度のことは子どもにとっても常識であるべき。技術については、複雑、高度に発展した現代技術だけでなく、単純な古代の技術からの歴史的な発展についても十分配慮すべき。	原案どおり	常設展示については、物理学、化学、生物学、地学などの自然科学を中心として展開していきたいと考えています。
19	18	I-5	ロボスクエアのみでなく、福岡市民防災センター、まもる一む等の市の類似施設とも統合を検討して欲しい。	原案どおり	ご意見は今後の検討において参考とさせていただきます。
Ⅱ 事業活動の方向性					
20	19～26	Ⅱ	全体の理想的構想は良い。しかし、実現の可能性は疑わしい。その理由は、法曹関係施設の一隅のこじんまりとした施設では、立地環境・規模から見ても十分とは言えない。学習支援・交流事業も、既存の学校教育・学習塾やNPO科学の公園、SAFN e t、サイエンスカフェなどと競合するし、それらを吸収し得るスペースも不足するのではないか。	原案どおり	基本構想をとりまとめるにあたっては、厳しい財政の見通しを踏まえて、徹底した「選択と集中」の視点から新たな施設が担うべき役割・機能を絞り込むとともに、コンパクトで持続可能な施設づくりを目指す必要があることから、新たな施設は、子どもの科学への興味関心を高め、探求心や創意工夫する力を養うことにより、子どもの学力の向上と将来を担う人材の育成を目的として再整備することとしたものです。 新たな施設は、福岡市の強みを生かしながら、科学の原理や最新の科学技術に親しみ、楽しく学べる参加体験型の科学館として、子どもの健やかな育ちや豊かな学びを促すことを、その基本的な役割・機能としています。 様々な科学体験を通じて、子どもの好奇心を刺激し、探究心や創意工夫する力を養うことにより、子どもが科学に関して確かな学力を身につけ、九州・アジアをリードできる人材、福岡の将来を担う人材の育成にも寄与することを目指していきます。 また、子どもが楽しく、しっかりと学ぶことができる魅力ある施設とすることにより、結果として、生涯学習の場として市民の科学リテラシーを育むことや賑わい・交流にも寄与することにもつなげていきます。 なお、施設規模・構成や事業活動の詳細については、今後基本計画を策定していく中で具体的に検討していきます。
21	19	Ⅱ-1-(3)	4頁に知の集積である大学との連携が書かれているが、大学の研究成果の還元が乏しく、大学の貴重な財産が利益になっていないように思う。九大・福大などなどが持ち回りで间断なく研究成果を発表するなど、大学の研究成果を発表できる工夫がほしい。	原案どおり	展示や事業活動については、大学をはじめとして、学校や企業、研究機関、NPO、他の施設など、多様な主体と連携しながら、科学館単体ではなし得ない、様々な展開ができるよう、ご意見も参考としながら、今後、検討していきます。
22	19, 20	Ⅱ-1-(3) Ⅱ-3-(1)	展示について、観る側としては、教育とエンターテインメント・そこにプレゼン力が加わると人の心を揺さぶることができるのではないかと。大企業・中小企業・大学・研究機関などがアイデアや技術を観せたい、PRや広報として自ら発信したい、伝えたい欲求を満たせるようにしてはどうか。企業名やキャラクターの表記も解禁し、常設の展示ブースとして出店してもらうとよいのではないかと。例えば、屋上で農業科学の進歩をみせたり、医療機器の技術PR、ITならばgoogleやマイクロソフト、appleなど、それからテーブルでサッカーの試合をするロボットなどの常設ブースあってもよい。研究者・企業技術者マンが熱く子ども達に、来場者に語り、教育者の卵もボランティアとして参画してくれると思う。	原案どおり	展示や事業活動については、大学をはじめとして、学校や企業、研究機関、NPO、他の施設など、多様な主体と連携しながら、科学館単体ではなし得ない、様々な展開ができるよう、ご意見も参考としながら、今後、検討していきます。
23	19	Ⅱ-1-(5)	(5) 積極的な人材育成について、福岡を担う人材育成の場として、現在の少年科学文化会館は大きな貢献を果たしてきたと思うが、これからも（文化も）必要であることに変わりはないのではないかと。	原案どおり	これまで科学文化会館として長きにわたり果たしてきた役割も踏まえ、科学とアートを結ぶなどの科学館ならではの視点から、様々な展示や事業を展開していきたいと考えており、子どもの育ち・学びの場として、将来の福岡を担う人材の育成に寄与するとともに、館の運営に関わるボランティアや地域での科学コミュニケーションに関わる人材の育成を図っていきます。
24	20	Ⅱ-3-(1)	「福岡市は豊かな自然に恵まれている」と4頁に明記され、また基本構想検討委員会でも意見があった自然観察の展示の構想が明記されていない。	一部修正	「科学の原理・法則」のテーマの中で、福岡の自然についても展示を展開していきたいと考えており、今後基本計画を策定していく中で具体的に検討していきます。 なお、ご意見の趣旨を踏まえ、26頁（6）積極的なアウトリーチ活動 の箇所を以下のとおり修正しました。 ＜展開例＞ ・学校や公民館での出前授業、天体観望や自然観察などの出張イベント

意見 NO	頁	分類	意見要旨	対応	市の考え方
25	20	Ⅱ-3-(1)	展示・演示事業には、「観察」の重要性の認識が足りない様に感じる。生きた自然環境の観察を、閉鎖的な建物の中で如何に行っていくかは重要且つ困難な課題である。ほかに、テレビで過去に放映された優れた科学番組を上映する設備を設け、NHK等の協力を得てそれを上映するのも一案であろう。	一部修正	「科学の原理・法則」のテーマの中で、福岡の自然についても展示を展開していきたいと考えており、今後基本計画を策定していく中で具体的に検討していきます。 なお、ご意見の趣旨を踏まえ、26頁（6）積極的なアウトリーチ活動 の箇所を以下のとおり修正しました。 ＜展開例＞ ・学校や公民館での出前授業、 <u>天体観望や自然観察などの出張イベント</u>
26	20	Ⅱ-3-(1)	常設展示については、科学は進歩するものでこまめな展示の入替をする必要があると思う。	修正	ご意見の趣旨を踏まえ、19頁 1基本方針（2）いつ来ても新鮮な体験ができる の箇所を以下のとおり修正しました。 いつ来ても何か行われており、新鮮な科学体験ができる場とする。 <u>展示の定期的な更新</u> や企画展等でタイムリーな話題を提供することに加え、サイエンスショーや体験イベントなどの楽しみもあり、学校では難しい実験・観察ができるなど、ここでしかできない体験の機会を提供する。
27	20	Ⅱ-3-(1)	展示は、動かないもの、じっくりと立ち止まって読まなければいけないものでは駄目である。理科離れが進んでいるのであれば、興味を抱かせる工夫が必要。五感に働きかけるものとしてほしい。	原案どおり	展示については、「楽しく学ぶ、正しく理解する」「新たな発見・気づきがある」「夢が広がる、福岡が好きになる」との考え方を基本として展開していきたいと考えています。 ご意見も参考としながら、今後基本計画を策定していく中で具体的に検討していきます。
28	20	Ⅱ-3-(1)	展示テーマに「生活」があげられているが、身近なテーマとしてその中に農業を入れてはどうか。最近では、植物工場の小型化が進んでおり、近未来の身近な農業のありかたとして、植物工場を屋上に展開してはどうか。企業に屋上スペースを貸し出して、企業の創意工夫で付加価値を作り出すほうが科学館のテーマに沿いつつも魅力を高めることになると思う。なおかつ、賃料収入を得て、それを利用して館は常に進化（付加価値の拡大）を続け、「科学は完成せずに発展し続ける」という壮大なイメージともつながるのではないか。	原案どおり	展示内容の詳細については、今後基本計画を策定していく中で具体的に検討していきます。
29	20	Ⅱ-3-(1)	建物の地下も重要な市有財産であり、活用せずに放置するのはもったいないので、九大六本松キャンパス跡地内の裁判所・検察庁・民間複合施設・科学館・街灯などに対して、スマートコミュニティを形成できるだけの発電所を作ってはどうか。全量買取制度により再エネ参入が増えたが、多くは田舎の山や休耕田などである。都心部の再エネモデルとしてバイオマスによる発電所を科学館＋公園の地下に設置してはどうか。市民にとっては再エネの学習拠点ともなるのではないか。	原案どおり	展示内容や施設構成の詳細については、今後基本計画を策定していく中で具体的に検討していきます。
30	20	Ⅱ-3-(1)	「夢が広がる、福岡が好きになる」について、説明不足で意味不明瞭である。理工系学部卒業者の市外流出とも繋げてもっと詳しい説明が要るのではないか。	修正	ご意見の趣旨を踏まえ、20頁 3展示・演示事業（1）常設展示 ①展示展開の考え方 ウ夢が広がる、福岡が好きになる の箇所を以下のとおり修正しました。 福岡にある大学や企業と連携しながら、福岡で行われている研究や開発の現状を伝え、 <u>子どもが福岡の優れたところを知ることによって、自分が生活する福岡のことを誇らしく感じて、もっと好きになったり、自らの将来の職業に関する夢を重ねるきっかけとする。</u>
31	23	Ⅱ-3-(3)	福岡市はアジアマンスを創設し、第一回アジア文化賞を東アジア天文学史の重鎮ジョセフ・ニーダムに捧げ、世界にアジア文化史の高い視点を示し、世界的評価を得た。この福岡市の実績を踏まえ、日本だけでなく、東アジアの天文学史をふまえ、ソウル・北京などの科学館と連携し、プラネタリウム番組制作を子供たちの共同的な活動により起し、その活動を新たな科学館が支えてはどうか。子供たちの交流を起こすことで東アジアの科学教育、人材交流を進めるために、プラネタリウムを通して小、中学生の交流の場を与える構想としてはどうか。この基本構想案を見ると国内450館を数える他施設を真似た総花的な構想に終始しているように感じる。	一部修正	ご意見の趣旨を踏まえ、23頁（3）プラネタリウム の箇所を以下のとおり修正しました。 プラネタリウムでは、天文に関する学習投影や一般投影、全天周映像の上映を行う。 また、 <u>プラネタリウムの番組制作に子どもが参加することや、施設・設備を有効に活用して多様な楽しみを提供できるよう、音楽や演劇の上演などの多目的な活用も検討する。</u> なお、東アジアの他の科学館との連携に関するご意見については、今後の検討において参考とさせていただきます。
32	23	Ⅱ-3-(3)	プラネタリウム室について、23頁には音楽や演劇の上演などの多目的な活用も検討と記されており、是非とも実現を願う。 28頁には、本市小学校の児童一学年程度を収容可能とあるが、146校×35人学級×1クラスとしても約5,100人の計算となるが、これだけの人数が収容可能なのか。	原案どおり	本市小学校の児童一学年程度を収容できるとは、一小学校の一学年程度との趣旨であり、少なくとも180席程度は確保したいと考えています。 プラネタリウムの多目的な活用や施設・設備の詳細については、今後基本計画を策定していく中で具体的に検討していきます。
33	23	Ⅱ-3-(3)	プラネタリウムについて、「音楽や演劇の上演など多目的な活用を検討する。」とあるが、思考の混乱があるのではないか。	原案どおり	近年、他都市の施設でもプラネタリウムを活用し音楽や演劇の上演などを実施しており、これらの取組みも参考としながら、プラネタリウムでは、天文に関する学習投影や一般投影、全天周映像の上映だけにとどまらず、施設・設備を有効に活用して多様な楽しみを提供できるよう、音楽や演劇の上演などの多目的な活用も検討していきます。

意見 NO	頁	分類	意見要旨	対応	市の考え方
34	24	Ⅱ-4-(1)	積極的なアウトリーチ活動について、平成23年度の天体観望会は2回になっているが、数年前は4～5回あったように思う。夜、会館に子どもを集めるイベントは子どもだけでは参加が難しいと思うが、地域の小学校などで観望会を開催すれば、子どもだけでも参加できるだろう。プラネタリウムだけではなく、実際の星空を見せることは大切なことだと思う。	修正	ご意見の趣旨を踏まえ、26頁（6）積極的なアウトリーチ活動 の箇所を以下のとおり修正しました。 ＜展開例＞ ・学校や公民館での出前授業、 <u>天体観望や自然観察などの出張イベント</u>
35	24	Ⅱ-4-(2)	体験型・実験は大いに行うべきだと思う。科学離れと言われているが、実際は学校などで実験などの時間が十分に取れず面白さをわからないのではないか。私たちの頃は実験も多く、実験室での体験は楽しい時間だったと記憶している。	原案どおり	学習支援・交流事業として、学校では実施することが難しい実験や観察などを積極的に展開するとともに、学校教員や地域団体の指導者を対象とした、理科に関する研修や相談対応、実験器具、標本等の貸与等を検討していきます。
36	25	Ⅱ-4-(3)	サイエンスショーについて、専用のステージを造るのならば、演劇や音楽鑑賞のホールにしても良いのではないか。	原案どおり	サイエンスショーは、常設展示にはない体験機会の提供や、驚き・発見を通じて科学への興味・関心を高め、より深い理解を促すため、火や水を使用できる特別な仕様の科学実験専用のステージであり、実験の動作・手元が観客から十分に見えるように、会場は比較的小規模で、座席数もあまり多くはならないものと想定しています。
37	26	Ⅱ-5-(1)	図書館が、今以上に充実し福岡市の知と文化の宝庫となることを望む。絵本の読みかせのイベントだけでなく、もっと発展させ、絵本作家のワークショップ、関連する演劇や演奏会をして初めて、大人とこども、子ども同士の心の共有ができる。その為にも、拠点となる文化ホールは必要。	一部修正	ご意見の趣旨を踏まえ、26頁 5その他の事業（1）情報集積・発信 の箇所を以下のとおり修正しました。 科学を中心とした図書や映像資料を集積したライブラリーを設置して資料を閲覧、貸出することにより、子どもの学習や教員、指導者の教育研究活動に役立てる。情報ライブラリーは、自由学習のほか、 <u>絵本の読み聞かせやワークショップ等</u> のイベントにも活用する。 なお、文化ホールが必要とのご意見については、NO.12に記載しています。
Ⅲ 施設展開の方向性					
38	27～30	Ⅲ	近隣の久留米市で中央公園と百年公園の中に「鳥類センター」や中央グラウンドと併設した「青少年会館」、北九州市の「環境ミュージアム」や「スペースワールド」と共存する「自然史（いのちのたび）博物館」や、武雄市の「宇宙科学館」などは、それぞれ特性を生かして存在価値が認められている。九大六本松キャンパス跡地の「リーガル・パーク」の一隅のこじんまりした福岡市の科学館に対して、次世代を担う子どもたちが、どの様に受止めるか、一考を要する。	原案どおり	基本構想をとりまとめるにあたっては、厳しい財政の見通しを踏まえて、徹底した「選択と集中」の視点から新たな施設が担うべき役割・機能を絞り込むとともに、コンパクトで持続可能な施設づくりを目指す必要があることから、新たな施設は、子どもの科学への興味関心を高め、探求心や創意工夫する力を養うことにより、子どもの学力の向上と将来を担う人材の育成を目的として再整備することとしたものです。 新たな施設は、福岡市の強みを生かしながら、科学の原理や最新の科学技術に親しみ、楽しく学べる参加体験型の科学館として、子どもの健やかな育ちや豊かな学びを促すことを、その基本的な役割・機能としています。 様々な科学体験を通じて、子どもの好奇心を刺激し、探究心や創意工夫する力を養うことにより、子どもが科学に関して確かな学力を身につけ、九州・アジアをリードできる人材、福岡の将来を担う人材の育成にも寄与することを目指していきます。 このような考え方のもと、コンパクトでありながらも、現在の少年科学文化会館の機能を充実し、福岡らしい、しっかりと科学を学べる施設、子どもが夢や未来を広げていくことができる施設を目指すとともに、子どもが楽しく、しっかりと学ぶことができる魅力ある施設とすることにより、結果として、生涯学習の場として市民の科学リテラシーを育むことや賑わい・交流にも寄与することにもつなげていきます。 なお、施設規模・構成の詳細については、今後基本計画を策定していく中で具体的に検討していきます。
39	28	Ⅲ-2	延床面積10,000㎡程度としているが、九大六本松キャンパス跡地の西側区画の面積は12,000㎡なので、複合施設の中で中途半端に2,000㎡を残して10,000㎡とするのではなく、1フロア全部を使った方がいいと考える。 西側区画の何階部分に少年科学文化会館が入るのか明記されていないが、こどもたちだけで入館できる便利な位置で、防災面からも1階を望む。	原案どおり	延床面積10,000㎡程度を整備するために必要となる敷地面積は5,000㎡程度が基本になると想定しています。 なお、新たな施設の整備場所は、九州大学六本松キャンパス跡地を候補地として、UR都市機構と協議を行っているところです。
40	28	Ⅲ-2-(2)	一度限りの来館ではなく、子どもがリピーターや常連になる様な施設であるべき。そのためには自分のアイディアで実験や研究ができる設備があることが望ましい。	原案どおり	子どもや市民がスタッフのアドバイスを受けながら、自由の実験や工作を行うことができるオープンラボをはじめ、様々な活動ができる実習室の設置について検討していきます。

意見 NO	頁	分類	意見要旨	対応	市の考え方
41	28	Ⅲ-2-(2)	情報ライブラリーを充実させてほしい。【2件】 ・情報ライブラリーには、九州・アジアの諸問題を正しく理解することができるような書籍（史料検証、日本の領土など）を充実させることを望む。 ・情報ライブラリーの規模は、少なくとも現状維持か、それ以上にして、資料（本）の館内配置について専門家の助言を得て進めてほしい。また、総合図書館とネットワーク化してほしい。	原案どおり	情報ライブラリーについては、科学を中心とした図書や映像資料を集積し、資料を閲覧、貸出することにより、子どもの学習や教員、指導者の教育研究活動に役立てていきます。 所蔵する書籍等については、ご意見も参考としながら、今後、検討していきます。
42	28	Ⅲ-2-(2)	地下や屋上などの空間を収益に活かす視点として、工場や新エネルギーのプラントなどを盛り込むとよいのではないか。	原案どおり	施設構成の詳細については、今後基本計画を策定していく中で具体的に検討していきます。
43	30	Ⅲ-2-(2)	現在の少年科学文化会館には天文台があったと思うが、今回の基本構想案では天文台については何も触れていないが、なぜか。背振少年自然の家には天文台があるが、車がないと行けない。それに冬場はチェーンがないと行けないとの事なので、街中で一年中、気軽に天文を見る設備が必要だと思う。	原案どおり	子どもが実際に天体観測を体験できる場や機会を提供することは重要であると考えていますが、新たな施設で取り組む具体的な活動内容と、そのために必要となる諸室や設備については、今後基本計画を策定していく中で具体的に検討していきます。また、近年のプラネタリウムでは、本物同様のリアリティの高い星空を再現したり、最新の知見に基づいた宇宙の立体構造を表現することなどが可能なシステムが開発されていますので、街中で、一年中、気軽に天文を見ることができるよう、より優れたプラネタリウムシステムの導入に向けて検討していきます。
Ⅳ 管理運営の方向性					
44	31～34	Ⅳ	市政の次世代に対する態度で決まるが、市財政の実状と将来像から見て、構造物（ハコモノ）の整備に金を出した後はボランティアなど経費のかからない方向か、業者にゆだねる事になろう。教育界・業界・研究者間でも競争原理が浸透した現状では、最先端の科学・技術の公開などあり得ない。子どもの相手をする時間があれば、実験・研究に向けるのが現実であることを認識して対策を立てる必要あるのではないか。	原案どおり	基本構想をとりまとめるにあたっては、厳しい財政の見通しを踏まえて、徹底した「選択と集中」の視点から新たな施設が担うべき役割・機能を絞り込むとともに、コンパクトで持続可能な施設づくりを目指す必要があることから、新たな施設は、子どもの科学への興味関心を高め、探求心や創意工夫する力を養うことにより、子どもの学力の向上と将来を担う人材の育成を目的として再整備することとしたものです。 新たな施設は、福岡市の強みを生かしながら、科学の原理や最新の科学技術に親しみ、楽しく学べる参加体験型の科学館として、子どもの健やかな育ちや豊かな学びを促すことを、その基本的な役割・機能としています。 様々な科学体験を通じて、子どもの好奇心を刺激し、探究心や創意工夫する力を養うことにより、子どもが科学に関して確かな学力を身につけ、九州・アジアをリードする福岡の将来を担う人材の育成にも寄与することを目指していきます。 また、子どもが楽しく、しっかりと学ぶことができる魅力ある施設とすることにより、結果として、生涯学習の場として市民の科学リテラシーを育むことや賑わい・交流にも寄与することにもつながっていきます。 なお、管理運営の詳細については、今後基本計画を策定していく中で具体的に検討していきます。
45	31, 32	Ⅳ-1-(2)	スタッフについては、サービスの質を決める大事な要素である。一般の市民スタッフの中に、大学の教員希望者や短大の幼稚園教諭や保育士希望者を想定してはどうか。彼らの成長にもつながり、意欲的だと思う。	原案どおり	ボランティアの活用方法や運営体制の詳細については、ご意見も参考としながら、今後基本計画を策定していく中で具体的に検討していきます。
46	34	Ⅳ-4	運営主体は、この会館の教育的性格を考えても指定管理者ではなく、コア部分は今後も直営で運営してほしい。	原案どおり	運営方式については、館の目的・役割を十分に果たす効果的かつ効率的な方式となるよう、今後基本計画を策定していく中で具体的に検討していきます。
47	34	Ⅳ-5	気軽に利用できる適正な利用料としてほしい。【2件】 ・現在の施設でプラネタリウムが大人200円で観覧できるのは、リーズナブルな設定であり、今後も是非気軽に観覧できるような料金設定としてほしい。 ・「適正な利用料を徴収する」ことには賛成。名古屋市科学館でも、家族4人連れで2000円前後で納まる設定となっており、家族4人で2000円程度が望ましいと考える。他の市の施設（美術館）などとの共通割引券など各種割引制度や通年パスなどの仕組みも参考としてほしい。	原案どおり	ご意見も参考として、利用者の負担能力や受益と負担の公平性を考慮しながら、適正な利用料を徴収することを、今後、検討していきます。
その他					
48		その他	基本構想検討委員会委員に十分な責任を担えると思われない方が入っているのは何故か。この基本構想検討委員会はそれほど議論に余裕のある委員会なのか。	参考意見	基本構想検討委員会は、少年科学文化会館の移転再整備に向けた基本構想を検討するにあたり、専門的・学術的見地や利用者の立場から助言を行うことを目的として設置したもので、委員の人選についても、基本構想段階の新たな施設の全体像について助言をいただくために相応しいと考える方に就任をお願いしたものです。

意見 NO	頁	分類	意見要旨	対応	市の考え方
49		その他	21世紀の科学のあり方については、1996年にUNESCOのブダペスト会議で決めた様に次世代に良い環境を引継ぐこと、平和に務めることである。新たな施設が九大六本松キャンパス跡地の「リーガル・パーク」の中で子どもを育てるのか、それとも裁判所移転後の城跡や九大箱崎キャンパス跡地などの自然に恵まれた広大な空間を活用する努力をするか、諸現象の中の因果関係を合理的に解析・判断する能力を養うのが科学の基本であることを次世代に示すべきであろう。	参考意見	基本構想をとりまとめるにあたっては、厳しい財政の見通しを踏まえて、徹底した「選択と集中」の視点から新たな施設が担うべき役割・機能を絞り込むとともに、コンパクトで持続可能な施設づくりを目指す必要があることから、新たな施設は、子どもの科学への興味関心を高め、探求心や創意工夫する力を養うことにより、子どもの学力の向上と将来を担う人材の育成を目的として再整備することとしたものです。 新たな施設は、福岡市の強みを生かしながら、科学の原理や最新の科学技術に親しみ、楽しく学べる参加体験型の科学館として、子どもの健やかな育ちや豊かな学びを促すことを、その基本的な役割・機能としています。 様々な科学体験を通じて、子どもの好奇心を刺激し、探究心や創意工夫する力を養うことにより、子どもが科学に関して確かな学力を身につけ、九州・アジアをリードできる人材、福岡の将来を担う人材の育成にも寄与することを目指していきます。 このような考え方のもと、コンパクトでありながらも、現在の少年科学文化会館の機能を充実し、福岡らしい、しっかりと科学を学べる施設、子どもが夢や未来を広げていくことができる施設を目指すとともに、子どもが楽しく、しっかりと学ぶことができる魅力ある施設とすることにより、結果として、生涯学習の場として市民の科学リテラシーを育むことや賑わい・交流にも寄与することにもつなげていきます。 なお、新たな施設の整備場所については、九州大学六本松キャンパス跡地を候補地として、U R都市機構と協議を行っているところであり、今回意見を募集する対象とはしていません。
50		その他	建物が真四角ではいけない。前を通る人も施設を見ただけで「なんだろう」「入ってみたい」と興味を抱かせるものにしてほしい。	参考意見	施設の外観については、ご意見も参考としながら、今後、検討していきます。
51		その他	出来るだけ建物の高さを高くしてほしい。60mまで作れるのに科学館だけに固執して低層の施設を作ったらもったいない。最上階に展望施設があると良いのではないか。科学館がアジアにまで向けた内容にするのであれば、ランドマーク的なものがないと思う。高層の施設はそれだけで観光施設になりえる。晴れた日は韓国プサンまで見えるようだったら、韓国の人もたくさん来館するのではないか。構想のたてられている福岡城に負けない観光施設を目指してほしい。	参考意見	施設の高さ・形状については、ご意見も参考としながら、今後、検討していきます。
52		その他	施設は外観も重要で、それだけで人・物・資金を惹きつけ、稼げる施設として永続的に続くことが理想である。 例えば、世界で知らない人はいない今唯一の日本人、福岡市出身で、終わることのない発展をあらわしながら建設中のサグラダ・ファミリアプロジェクト主任彫刻士外尾悦郎氏にプロデューサーになってもらい、彼のような方が関わることでそのイメージは科学の未来も発展し続ける事に合致するのではないか。	参考意見	ご意見は今後の検討において参考とさせていただきます。
53		その他	六本松地区において市民が自然を身近なものとして受入れることができるように、背振（油山）から西公園へ延びるグリーンベルトの一画として豊富な緑を取り入れてほしい。 また、風の通り道を確保できるように、もし南側に60m程度の法曹関係施設が建設されるのであれば、北側は建物の高さを25m以下にするべき。	参考意見	新たな施設の整備場所については、九州大学六本松キャンパス跡地を候補地として、U R都市機構と協議を行っているところであり、今回意見を募集する対象とはしていません。 施設の高さや、植栽を含めた外構計画については、今後検討していきます。
54		その他	六本松は、福岡城大濠公園の南に位置するまちでありイメージもよく格のあるエリアと思う。回遊型の交流人口を増やせ、海外からの数少ない市内観光エリア、居住エリアとしてもよりクローズアップできるはずである。上記イメージを高めるため、例えば「代官山蔦屋書店」のような大人な施設ができるとよいと思う。スマートなショップと新たな賑わいとコミュニティ空間を創造でき、住居を上に乗せてもマッチしそうである。大人から子どもまでが科学館とのコンビネーションで相乗効果が生まれると思う。また、建物はより高層化する方がよいと思う。	参考意見	ご意見は今後の検討において参考とさせていただきます。
55		その他	六本松九大キャンパス跡地は、九州大学の学生・先生・職員など多くの知的水準の高い方々が街を往来し、休日は各種の試験会場になったりして多くの受験生が闊歩していた。この地は知を創造する場所であったし、市の真ん中に位置する交通アクセスの優れた場所であり、子どもが科学技術を見て驚き、体験して感嘆し、心に夢を抱けるような、今の少年科学文化会館をパワーアップした施設を建設してほしい。何十億円も税金を投入してつくるのだから、驚き・感動・夢を与えられる施設と内容を考えてほしい。	参考意見	ご意見は今後の検討において参考とさせていただきます。
56	16	その他	16頁の注記は本文では6になっていて、頁下部では7になっており間違っている。	修正	誤記ですので、修正しました。

4. その他の修正

基本構想検討委員会のご意見や議会でのご意見も踏まえて、最終的に基本構想に反映させたもの

修正箇所数 5 箇所

修正 NO	頁行	修正内容	市の考え方
序 少年科学文化会館再整備の必要性と方向性			
1	3頁 2 福岡市の状況 (1) 3行目	しかしながら、年齢別に見ると、年少人口（0～14歳）は <u>今後は平成32年頃をピークに減少</u> ，生産年齢人口も横ばいからに徐々に減少に向かう一方で，老年人口は継続して増加し，福岡市においても少子高齢化がさらに進んでいくものと見込まれる。	2020年（H30）の年少人口の推計は204千人ですが，1995年（H7年）以前の年少人口はそれよりも多くなっていることから，より正確を期すために修正をしました。
Ⅰ 基本的な考え方			
2	15頁 2 役割・機能 5行目	様々な科学体験を通じて，子どもの好奇心を刺激し，探究心や創意工夫する力を養うことにより，子どもが科学に関して確かな学力を身につけ，九州・アジアをリード <u>できる人材</u> ，福岡の将来を担う人材の育成にも寄与することを目指す。	福岡市の将来を担うというよりも，世界に羽ばたくというような，もっと広い視野が必要との考えから，修正をしました。
Ⅱ 事業活動の方向性			
3	20頁 (1) ① ア 2行目	子どもの学習へのきっかけとして，まず「楽しむこと」を重視しながらも，それにとどまることなく，科学について正しく理解し， <u>知的好奇心を満足</u> できることを目標として展示を展開する。	展示展開の考え方について，『楽しく学ぶ』『新たな発見・気づき』『夢が広がる』だけでなく，より科学館の専門性を出す必要があるとの考えから，修正をしました。
Ⅲ 施設展開の方向性			
4	28頁 2 施設規模・構成 (2) ② 5行目～29頁3行目	実験室は，会館一日学習やクラブ・講座等で使用する物理実験室，化学実験室，生物・地学観察室の3室を設置するほか， <u>学校団体等の利用に際して，オリエンテーションや昼食のために使用するオリエンテーション室や，サイエンスショーを実施できるステージと設備を備えた空間を確保する。</u> また，子どもや市民がスタッフのアドバイスを受けながら，自由に実験や工作を行うことができるオープンラボをはじめ，様々な活動ができる実習室や科学に関する講演会等を行うスペースの設置を検討する。	基本構想検討委員会では，科学に関する講演会等ができるスペースは必要とのご意見を重ねて頂いており，科学館に必要な機能として，科学に関する講演会等を行うスペースの設置を検討することを，基本構想に明示することとしました。 なお，今後，基本計画の策定に向け，施設全体の諸室・設備の構成や規模，仕様などを検討していく中で，講演会等を行うスペースについても，席数や付帯設備などの具体的な内容を整理していきますが，その検討にあたっては，市民の皆さまに多目的に利用いただけることも視野に入れながら，進めていきます。
5	30頁 <施設構成イメージ> (2) 学習・研修ゾーン	オープンラボ、その他の実習室 <u>科学に関する講演会等を行うスペース</u>	上記の修正に伴い，図表の内容を修正したものです。